

平成17年9月6日大水害

あれから10年

教訓は生かせるか：

>32<

パネルディスカッション

「災害の教訓を生かす」
「自助・共助・公助」

【杉尾】最後に、これまでのご意見を踏まえて、私の方でちょっとまとめさせていただきます。

【杉尾】最後に、これ

お話がありましたように、ハード整備は行政のほうで肅々と進められていくということ

が分かります。それから、ソフト対策も、台風14号の災害で得た教訓を踏まえて、各機関

がいろいろと講じているということが分かります。

ただ、近年の異常な気象状況を踏まえると、堤防の整備とか、河道の掘削とか、そういったハード整備だけでは防災に

では防災に対処するのはとても難しいということになります。その意味で、これからはますますソフト対策の充実が求められているんじゃないかと思

います。

「自助・共助・公助」の観点からは、地域の活動が活発に行われているので、住民の皆さんには、早めに行動すること、それから、個人で行動するのでは

なくて、地域の中で協力しながら助け合うことが大切だろうと思

います。

行政機関は、住民の皆さんの安心・安全を確保するために防災・

減災に取り組んでいる。これからも水害に強い地域づくり、分かりやすい情報提供を重点的に進めていくと思

いますので、より多くの住民の皆さんがこれら

の成果を有効に活用して迅速な避難に役立てていく、これが最も大切だろうと思

います。切に希望します。こういったことでまとめさせていただきます。今回のパネルディスカッションの議論を

最後にになりましたが、非常に多くの方に参加していただきまして、ありがとうございました。おわ

り。

ごさいました。また、パネリストの方々には

ありがとうございました。

黒田智寛

防災・減災を考えるシンポジウムから一

行動早く、個人でなく地域の中で

これからソフトの充実を

旧安賀多橋の橋桁付近まで迫った濁流。災害はいつ襲ってくるかわからない（平成17年9月6日午前7時50分ごろ）



多くの市民が来場して防災への心構えを新たにした「のべおかの防災・減災を考えるシンポジウム」（延岡市野口記念館）



これからの地域防災力の向上の備えとして参

考にしたいだけと

ありがたいと思

います。

最後にになりましたが、非常に多くの方に参加していただきまして、ありがとうございました。おわ

り。

ごさいました。また、パネリストの方々には

ありがとうございました。

黒田智寛

防災・減災を考えるシンポジウムから一

行動早く、個人でなく地域の中で

これからソフトの充実を